



かみひら小だより

学校通信 特別号

学校教育目標「心豊かで強い意志を持ち
自ら学ぶ健康でたくましい子」の育成

令和7年3月10日

上尾市立上平小学校

学校ホームページは、上尾市 上平小 検索 スマホからもどうぞ!

発行責任者 校長 中島晴美



1年間ありがとうございました
さらなるウェルビーイングな学校へ向けて ~学校評価から~

校長 中島 晴美

いよいよ令和6年度の航海も無事に終えようとしています。これもひとえに一年間「チーム上平小」のチームメンバーとして、本校児童の豊かな成長のためにご理解ご協力、お力添えいただきました保護者・地域の皆様のお陰です。一年間ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

本校では、目指す学校像「児童一人一人の幸せに生きる力を確実に伸ばす活力ある学校」「児童・保護者・地域が誇れる魅力ある学校」の実現にむけ、この一年間日々の教育活動に取り組んでまいりました。時代の流れとともに変わる社会状況・気候変動・少子高齢化・テクノロジーの急速な進化等様々な要因から、学校現場におきましても変革が必要不可欠な時を迎えています。本校においても様々な変化を受け入れながらも「不易と流行」「調和」を大切に熟考しながら、子どもたちが今と未来の幸せを創造する力を培う教育活動を展開してまいりました。

今年度の学校評価の結果を熟考し、来年度もよりよい教育活動を展開していけるよう邁進してまいります。保護者・地域の皆様におかれましても、「チーム上平小」の一員としてご理解ご協力、お力添えいただけますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

1 学校評価とは

1年間の教育活動を振り返って評価を行い、次年度の更なる教育活動の充実を図るために『学校評価』を実施しています。この『学校評価』は、学校教育法等の法令に、その実施と結果の公表が義務づけられているものです。学校の教育活動に対して、教職員が自己評価を行い、その結果の説明責任を果たし、見通しを持ちながら、家庭や地域との連携関係を構築していくことを目的としています。

2 『学校評価』の構成

①教職員による『自己評価』

学校の教職員自身が、実施してきた教育活動を自ら振り返って評価し、次年度への改善策を検討します。その際に、保護者や児童の意見を参考にするために、アンケートを実施します。12月にアンケートのご協力いただいたのは、このためです。アンケートの結果は、自己評価を行う際の、重要な要素として活用させていただきました。

②学校関係者評価委員会による『学校関係者評価』

保護者や地域の代表の方々と構成された学校関係者評価委員会において、『自己評価』の結果や改善策に妥当性があるか評価していただくものです。『自己評価』の客観性や透明性を担保するものとして位置づけられています。なお、保護者や地域の代表ということで、多くの学校と同様に上平小学校でも、学校運営協議会の委員の方々に、学校関係者評価委員も併せてお願いして、『学校関係者評価』を実施していただいています。

3 『学校評価』の内容

- 6つの『領域』に評価項目が分かれています。
- 19の項目について評価しています。
- 評価は、A・B・C・Dの4段階で行っています。
- 評価書の左側は『自己評価』で、右側が『学校関係者評価』の結果となっています。
- 『学校関係者評価』の結果が『自己評価』と同じ場合は、『自己評価』が妥当であるとの評価で、『自己評価』と違う場合は、修正した方がいいという評価です

令和6年度 上尾市立上平小学校 学校評価書

評価基準 A (できている) B (どちらかといえばできている) C (どちらかといえばできていない) D (できていない)

領域	学校の自己評価			学校関係者評価	
	自己評価の評価規準	評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言
I 学校経営・学校教育目標	1	<p>■ 学校教育目標や目指す学校像・児童像の具現化に向かって、学校(学年・学級)運営や学習指導、その他の教育活動の工夫改善に取り組んでいる。</p>	<p>○学校教育目標や学校像や児童像等、保護者、児童、教師の中で共通理解ができている。</p> <p>◆職員のウェルビーイングの理解がまだ充分浸透していないため、今後も研修などを行い、全職員の理解を深める必要がある。</p> <p>○教師の児童への関わり方も良好に感じている保護者が多いのは、児童が教師の接し方に満足している割合が多いからだと考える。</p> <p>○教職員が児童の良い所を認め、ほめることにより、児童の成長を促すことができた。</p> <p>◆これからも教職員、地域一同足並みをそろえて頑張っていくことが必要である。</p>	A	<p>・令和8年度からの小中一貫教育に向け、上平小としての基盤を整えた目標を掲げ、次年度もさらに良い教育活動を行っていただきたい。</p> <p>・1年を通し、ウェルビーイングという言葉を理解し浸透してきたと思う。そこからより具体的にどう指導につなげていくのか、共通認識を持った取り組みを期待する。</p> <p>・ウェルビーイングを積極的に説明し、教育現場に取り入れた姿勢を評価したい。ウェルビーイング取組初年度ということで現場の理解などで賛否もあったかと思うが、次年度の取組に期待。</p> <p>・教育目標の達成を目指して、校長を中心に全職員で懸命に努力されている様子は実に頼もしい。</p> <p>・ウェルビーイングは職員、児童、保護者に浸透しているのではないか。特に保護者の中にも理解しようとする動きは歓迎したい。地域にも広めたい。</p> <p>・今後もウェルビーイングをたかめてほしい。</p> <p>・自分たちが住んでいる日本の文化伝統を他の国の人たちに誇りをもって伝えられるような人間になってほしい。もっと日本を知ってほしい。</p> <p>・子どもの自己肯定感を上げることは重要で、将来の人間形成にも深くかかわってくると思うのでこれからも持続してほしい。特におとなしい子や手のかからない子に積極的に声をかけてほしいです。</p>
	2	<p>■ 自己の職務の役割を認識し、チームワーク行動を発揮し、職場のウェルビーイングを高めるよう努め、学校運営に参画している。</p>	<p>○教職員が児童の良い所を認め、ほめることにより、児童の成長を促すことができた。</p> <p>◆これから教職員、地域一同足並みをそろえて頑張っていくことが必要である。</p>	B	<p>・先生方の指導が児童に高評価され、目指す教育目標は実現されている。成果を的確にとらえ、より深い学びの実現を目指してほしい。</p> <p>・児童の良い点を認め、ほめるには、日常の中でしっかり観察し、小さな行動の変容にも見逃さず適切に対応していくことが重要です。児童の情報を多くの教員で共有してもらいたい。</p> <p>・学年の域をこえ、教職員全体でほめたり、叱ったりしてくれていると感じる。</p> <p>・生徒一人一人に視線を配った対応が見られる。</p>
	3	<p>■ 児童のよい点を積極的に認め、称賛し、必要な時には叱り、一人一人の児童を伸ばすことを念頭に教育にあたっている。</p>	<p>○教師の児童への関わり方も良好に感じている保護者が多いのは、児童が教師の接し方に満足している割合が多いからだと考える。</p> <p>○教職員が児童の良い所を認め、ほめることにより、児童の成長を促すことができた。</p> <p>◆これから教職員、地域一同足並みをそろえて頑張っていくことが必要である。</p>	A	<p>・先生方の指導が児童に高評価され、目指す教育目標は実現されている。成果を的確にとらえ、より深い学びの実現を目指してほしい。</p> <p>・児童の良い点を認め、ほめるには、日常の中でしっかり観察し、小さな行動の変容にも見逃さず適切に対応していくことが重要です。児童の情報を多くの教員で共有してもらいたい。</p> <p>・学年の域をこえ、教職員全体でほめたり、叱ったりしてくれていると感じる。</p> <p>・生徒一人一人に視線を配った対応が見られる。</p>

領域	学校の自己評価			学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
II 学習指導 (学力向上)	4	<p>■ 主体的・意欲的に教職員研修に取り組み、教材研究や指導方法の工夫改善に努力し、主体的・対話的で深い学びのある授業の実践、及び基礎学力の定着に努めている。</p>	B	<p>○学校課題研修で授業について共通理解をもって深めているが、基礎学力の定着に関しては、個人差が出ていると感じる。</p> <p>◆読書活動・英語に関わる学習について、保護者に積極的に周知・理解を求めていく必要がある。</p> <p>○上平小学校の特色である外国語活動の取組を頑張っていく必要がある。教職員も研修に取り組んでいく必要がある。</p> <p>○休み時間に、読み聞かせやEカフェ等の活動を行うことができた。</p> <p>◆タブレットでの家庭学習の充実や英語の授業の様子を見る機会が増えるとういと思う。</p>	B	<p>・教材研究や指導方法の工夫改善に意欲的に取り組む積極性を高く評価したい。基礎学力の定着に個人差が生じる現実に対して、個別的な指導が学習理解度に応じた学習集団を編成し、効果的な授業展開を期待します。</p> <p>・読書活動にも一層の努力を願う。読書は先人の優れた考えに感化され精神性が高められると同時に国語力の向上につながると思います。</p> <p>・本を読むことで多くの言葉と文章を学ぶことができ、話す力が伸びてくる。コミュニケーション力が向上するので好きなジャンルの本をたくさん読むように指導してほしい。</p> <p>・図書を楽しめる環境づくりもしっかりしており、本に親しむことができていると思う。</p>
	5	<p>■ 読書活動の取組を充実させ、児童は本に親しむことができている。</p>	B	<p>○映像から情報を得ることが多く、本に親しむ機会が減っていると思う。想像力を養う面でも読書は大切だと思う。</p> <p>・外国語教育はこれから必須だと思うが、母国である日本語を正しく身につけることも重要だと思う。保護者も職員も美しい日本語を大切にしてほしいと思う。</p> <p>・上平小の様々な工夫が凝縮された外国語活動に児童が楽しく取り組んでいることは素晴らしいです。</p> <p>・英語の授業参観では、いつも楽しそうな児童を目にしている。研究授業の成果もあり、定着しているが、上平小と言えば「外国語活動」とさらになるような授業に進んでほしい。また、中学校を見据えた英語の宿題を増やしてもいいと思う。</p>	B	<p>・英語は上平小の代表とする取組で、研究時期よりも多少トーンダウンしている部分があるかもしれないが、日常的な挨拶からも英語が浸透していると思う。</p> <p>・読書活動、英語への関心を高めてほしい。</p> <p>・低学年の英語活動がより充実した活動となるよう取り組んでほしい。</p> <p>・授業内で調べたことを自分の言葉や文章で表現する様子を見て、端末を利用した学習効果は表れていると感じる。</p>
	6	<p>■ 児童の英語に関わる学習への興味・関心を高める授業・取組を実践している。</p>	B		B	<p>・タブレットを利用した家庭での学習について具体的な例を児童、保護者に示してほしい。</p> <p>・学習者用端末を利用した場合、学習効果がある教科、あるいはその領域に何があるのか、学力の定着、深化、記憶の定着の観点から検討してほしい。</p>
	7	<p>■ 学習効果が高められるよう、学習者用端末を積極的に活用したり、情報モラル等の指導の充実を図ったりして新たな学びを創り出している。</p>	B		B	

領域	学校の自己評価			学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
Ⅲ 心の教育 (規律ある態度の育成)	8	■ 児童は、先生や友だち、来校者にしっかりあいさつができるようになってきている。	B	○校外でも児童が挨拶をする場面が多くなった。 ◆児童の丁寧な優しい言葉遣いについては普段からの「教員対児童」「児童対児童」の授業中・休み時間の会話から意識をし直す必要がある。	A	・校内、校外限らず挨拶できる児童が増えていると感じる。引き続き教員、保護者、地域が手本となるよう継続したい。 ・元気に挨拶をしてくれます。 ・子供が自分から挨拶できるように指導していきたい。
	9	■ 児童は、ていねいな優しい言葉遣いで学習や生活ができるようになってきている。	B	◆言葉遣いに関しては、全体的に低めの評価である。日頃から教師が見本となって温かい言葉がけを続けていくことが、改善に繋がる一つになるのではないかと考える。それが道徳性を養うことにも繋がってくると感じる。	B	・校外外であいさつのできる児童が多くなっていると思う。言葉遣いや挨拶はまず大人が範を示さなければならない。率先垂範あるのみ。 ・言葉遣い、けじめなど、生活面に関しては家庭の協力が不可欠であるため、学校と共通認識を持ち連携したい。
	10	■ 児童は、約束やきまり、時間を守り、けじめのある態度が身に付いてきている。(廊下歩行・もくもく清掃)	B	○けじめある態度に関しては、できていると感じている児童が多いので、自己肯定感をもちながら、けじめある行動を身につけられるようになると良いと考える。	B	・道徳教育、道徳科の授業で学んだことをいかに現実の生活の中で実践できるかが問われる。道徳的実行力の育成がカギである。 ・言葉の暴力と言われるが、自分の発する言葉に責任を持つと認識してほしいし、それを児童に伝えてほしい。
	11	■ 教育活動全体を通じた道徳教育、道徳科の授業の充実を図り、他者と共に生きるための基盤となる道徳性を養っている。	B	◆言葉遣いや挨拶は、家庭や地域と3者で協力していく。	B	・自分の言葉で自分の気持ちを伝えられる、他者の気持ちを理解し寄り添える、コミュニケーション能力のある児童に育てほしい。
領域	学校の自己評価			学校関係者評価委員の意見・提言		
	自己評価の評価規準	評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
Ⅳ 健康・安全・体力向上	12	■ 食物アレルギーへの対応や食に関する指導の取組が充実するように実践している。	B	○年度当初に食物アレルギーの緊急対応訓練を教職員で行ったことで、共通理解をして取り組むことができた。 ◆感染症や虫歯予防など健康に関することへの意識が高くなってきているものの、健康に指導について情報を発信する等、今後も継続が必要である。	B	・アレルギーの児童は年々増え、細分化してきていると思う。命にかかわることなので給食関係者だけでなく、教職員も知識と情報を常に更新してほしい。 ・う蝕予防に関して、低学年と高学年の年齢差があることから予防法が変わるため、その年齢に応じた指導を行えるとよい。同時に保護者に対しても指導が行えるとよいと思う。
	13	■ 感染症等やむし菌などの予防、けがの防止、交通事故防止・防災学習など健康や安全に関する指導や取組が充実するよう実践している。	B	○感染症、むし菌予防の呼び掛けを保健だよりや学校保健委員会等で呼び掛けているが、より保健指導の取組を保護者にも周知していく。う蝕治療率100%を目指し、取り組んでいく。	B	・健康教育担当の先生方や学校の指導のもと、大きなけがや事故もなく、児童の安全な学校生活は確保できている。 ・子供たちの体力低下も気になる場所だが、休み時間にも教員が児童と体を使う遊びを提供してくれている。体育の授業はもちろん、さわやかタイムも活用し、楽しくかつ安全に運動ができる環境を工夫してもらいたい。
	14	■ 児童が運動に親しみ、技能や体力を向上させる指導や取組が充実するよう実践している。	B	◆組織的な対応をしていく必要がある。報連相を徹底する。体育授業を充実させ、これからも運動好きな児童を育成していきたい。	B	・児童の体力の低下も気になる。このまま運動の習慣がつかずに成長すると、将来成人病になるリスクが上がるといわれている。温暖化や生活環境の変化等で屋外で遊ぶこと等が減り、危機管理能力も低下していると感じる。 ・運動させることが大切だが、難しい時代になっている。

領域	学校の自己評価			学校関係者評価	
	自己評価の評価規準	評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言
V 環境整備	15	B	<p>○施設の古さから、低評価になりがちだが、廊下や職員室前の掲示物など、昨年度よりは整備が進んでいると考えられる。</p> <p>◆安全点検や、日々の清掃を中心に安全管理や校内美化の取組を徹底させたい。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大変よく整備されている。 ・学校をきれいに使っていると思う。 ・教室も廊下も楽しく見せていただいています。 ・いつ来校しても廊下や階段にたくさんの展示が行われている。職員室前にはギャラリーのように絵画が並べられ、児童の活躍が素晴らしい。 ・廊下や職員室前等に掲示方法に工夫が見られ、児童、保護者、来校者に好印象を与えていると思います。 ・展示の新たな取組など、マンネリ化しない姿勢を評価したい。
	16	B	<p>○学習進度にあった掲示や、四季を感じる掲示など学習環境を整えることができた。特に、玄関から職員室前かけてカテゴリーごとに整頓できた。</p>		A
領域	学校の自己評価			学校関係者評価	
	自己評価の評価規準	評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言
VI 保護者・地域との連携	17	B	<p>○これからも積極的に地域に発信していくことで、開かれた学校を作っていきたい。</p> <p>◆保護者や地域など、協力して学校運営を行うために、学校応援団のさらなる活用が求められている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会やPTAを主催とした保護者や地域に向けた勉強会を開催してみるなど、さらなる活動も考えたい。 ・情報発信に工夫が見られ、開かれた学校として一段と飛躍している。 ・学校を取り巻く多くの団体に可能な限り情報を開いていく姿勢は好感が持てる。真剣に応援しようという機運が高まってきていると思います。
	18	B	<p>○学校運営協議会や地域の方々、学校応援団などと連携し、円滑に学校運営に取り組むことができた。</p> <p>◆来年度は生活科や総合的な学習の時間を通して、地域との交流連携をさらに増やしていきたい。</p> <p>◆幼児または生徒、地域の方との交流については、限られた学年の交流が主になっているので活動の幅を広げていきたい。</p>		A
	19	B	<p>◆幼児または生徒、地域の方（企業・団体）と児童が交流するなどの教育活動に取り組んでいる。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・より一層地域に根ざした学校運営実現のため、地域の方や企業・団体関係と子供たちや大人同士もかかわりを深め、地域の教育力を高めたい。